

## 株式会社コスモネット

# Mac、iPhone など Apple 製品の業務利用の拡大に向けて マルチ OS 対応の VMware Workspace ONE® を導入 一元的なデバイス管理と権限管理でゼロトラストセキュリティを実現

独立系の ICT サービスプロバイダーとして、法人向けのソリューション事業とモバイル端末などを個人に販売するショッピング運営事業を二本柱に成長を続ける株式会社コスモネット。同社では、社員が業務で利用する PC を Windows から Mac に切り替えていくにあたって、異なる OS が混在するマルチデバイス管理の基盤として VMware の統合エンドポイント管理ソリューション「VMware Workspace ONE®」(以下、Workspace ONE)を採用しました。同時に、権限管理をオンプレミスの Active Directory (AD) から切り離して Workspace ONE に統合し、クラウドシステムへのセキュアなアクセスを支えるゼロトラストセキュリティも実現しています。

## 導入時期

▶ 2020年9月

## 課題

- ▶ 業務で利用するマルチ OS 端末の一元管理
- ▶ 社内システムへの社外からのアクセス
- ▶ オンプレミスの Active Directory からの脱却
- ▶ 新たなデバイス認証、アプリ認証基盤の導入

## ソリューション

▶ VMware Workspace ONE®

## 導入効果

- ▶ マルチ OS 端末の管理負荷の軽減
- ▶ システムへの社外アクセスによる生産性向上
- ▶ 働き方改革、リモートワークの推進
- ▶ ゼロトラストセキュリティの実現に向けた基盤整備



株式会社コスモネット  
インフラストラクチャー部  
部長

兼子 信氏



株式会社コスモネット  
インフラストラクチャー部  
情報システムグループ  
課長

前川 洋之氏



株式会社コスモネット  
インフラストラクチャー部  
情報システムグループ  
主任

古妻 憲一氏

## SaaS への移行、AD からの脱却による マルチデバイスの業務環境へのシフト

1991年の設立以来、法人向けのソリューション事業に加えて、全国の400以上の店舗で大手キャリアのモバイル端末を販売するショッピング運営事業を通じて、通信業界をリードし続けるコスモネット。なかでも iPhone や iPad など Apple 製品の販売は、国内でも有数の Apple Premium Reseller (正規認定販売店) として、同社の事業の一翼を担っています。インフラストラクチャー部 部長の兼子信氏は次のように話します。

「コスモネットグループは1979年の有線音楽放送開局を契機に創業し、その後の電気通信の自由化により1987年から通信業界に参入しました。Apple 製品の販売については、厳しい審査を経て2013年に Apple 社と Apple Premium Reseller 契約を締結し、国内でも数少ない正規認定販売店となりました。同時に Apple 認定の専門店「C smart」をオープンし、現在は全国で19店舗を運営しています」  
 こうした同社のビジネスを支える業務システムは、長くオンプレミス環境上に構築した Windows システムが利用されてきました。クライアント端末も Windows が中心で、全国約400の営業拠点から VPN 経由でアクセスしていました。Apple Premium Reseller を取得し、2017年以降は業務で Mac を積極的に利用する方針を掲げましたが、オンプレミスの Active Directory (AD) によるユーザー認証や Windows 中心のシステムでは、Mac 端末からの利用に制限があり、自由に使いこなせないことが課題となっていました。また、社内システムの利用は社内ネットワーク内に限られ、こうした環境ではリモートワーク、働き方改革にも柔軟に対応することができません。そこで同社は、業務システムをクラウドシステム (SaaS) に移行すると同時に、AD によ

る権限管理から脱却し、Windows 端末と Mac 端末を一元的に管理しながら、社内システムにセキュアにアクセスできる新たな環境の整備に着手しました。インフラストラクチャー部 情報システムグループ 主任の古妻憲一氏は「Apple 製品を含めて、業務で利用するデバイスを適材適所で選択することで利便性を高め、また社員には Apple 製品に対する愛着を深めてもらうことを目指しました」と振り返ります。

## Workspace ONE が実現する 一元的なデバイス管理、権限管理

Mac、Windows といった異なる OS の一元的な管理基盤、およびクラウドシステムの新たな認証基盤の導入に向けて、同社は2019年6月から統合エンドポイント管理ソリューションの調査を開始し、最終的に Workspace ONE の採用を決定しました。それまで Mac 端末の管理用途で Workspace ONE を利用した実績はあったものの、新たな管理基盤の選定過程では、AD を介さずにいかにして Windows 端末を管理するかが重要なポイントとなりました。こうした仕組みの自社構築も覚悟する中で、情報収集のために参加したセミナーで Workspace ONE でマルチデバイス管理と権限管理が可能であることを知り、即座に採用を決めたといいます。「一番の決め手は、マルチ OS に対応し、Mac 端末、Windows 端末、iOS の iPhone、iPad まで、すべてのデバイスを網羅的に管理できることです。アプリケーション管理、アクセス制御を標準機能でカバーできることも高く評価しました」(古妻氏)

その後、2020年4月から Workspace ONE の導入プロジェクトがスタート。6月にかけて PoC (概念検証) を実施し、小規模な環境下でマルチ OS のデバイス管理、ユーザー管理、グループ管理を検証。その結果を受けて、

7月からは基本設計、詳細設計、システム構築のフェーズへと進みました。

10月からは認証基盤をADからWorkspace ONEに切り替える作業に着手。ここではまず、それまでWorkspace ONEで管理していた400台のMac端末を新たな権限管理基盤に移行しました。その後、500台のWindows端末を順次切り替え、2021年1月までにMac端末400台、Windows端末500台の合計900台をADの配下から切り離しました。

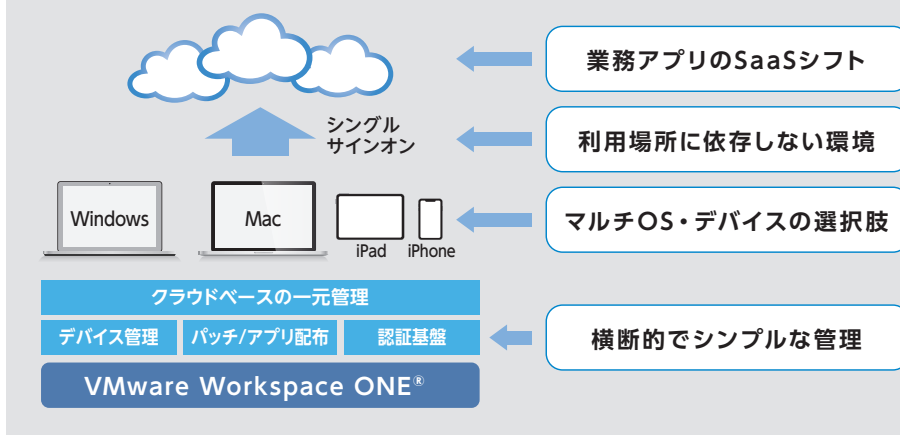
### 社外からのアクセスが可能になり 社員の働き方の自由度が向上

Workspace ONEの導入により、営業担当や店舗担当が使う端末はMac、Windowsを問わず、すべてを一元的に管理できるようになりました。ADの廃止によって、社員は社外からでも社内システムやクラウドシステムに自由にアクセスできるようになり、業務の生産性や働き方の自由度も確実に向上しています。

「社員にとって、働き方や好みに合わせて端末を選ぶことには大きな意義があります。業務上、Windows端末が必要な部門もある一方、若い社員は学生時代からApple製品の直感的なUIに慣れ親しんでいるだけに、Macは高い人気があります。また、移動中や外出先からでも社内システムにアクセスできるようになり、業務効率は格段に向上しました。特に新型コロナウイルス感染症の影響によってオフィスでの業務が制限される中で、リモートワークへスムーズに移行できたのもWorkspace ONEがあったからです。こうした緊急時の対応を含めて、Apple製品の法人利用のモデルとして、価値ある成果が生み出されています」(兼子氏)

セキュリティ面では、Workspace ONEのデバイス認証を用いて業務システムやクラウ

### マルチOSの一元管理とセキュアな運用を実現するVMware Workspace ONE



ドシステムにアクセスする端末を固定化することで、セキュアな環境を維持できるようになりました。運用面においても、従来の環境ではWindowsアップデートはWSUS、ポリシー制御はADなど、複数の管理方法を使い分けていましたが、Workspace ONEによってOSを問わず一元的に管理できるようになり、担当者の負荷も軽減しています。インフラストラクチャー部 情報システムグループ 課長の前川洋之氏は「Workspace ONEの導入によって、これまでのセキュリティリスクや運用負荷の課題が解消され、今後はゼロトラストを前提とした対策を講じていくことができます。まさに時代の一步先を行くIT運用が可能になったということです」と手応えを語ります。

### iPhoneとiPadの業務利用を拡大し ゼロトラストセキュリティに移行

今後は2021年の下期に向けて、社員の業務利用を目的にiPhoneとiPadを300台導入

する計画で、これらもMac端末、Windows端末と同様にWorkspace ONEでの一元管理を予定しており、さらにセキュリティを強化していく考えです。

「iPhoneとiPadの導入によって従来の社内ネットワークがなくなり、本格的なゼロトラスト環境へ移行することになります。ここでは、これまで以上にセキュリティが重要になってきますので、EDRソリューションの導入も視野に入れながら、次世代のゼロトラストセキュリティにチャレンジしていきます」(前川氏)

ADから脱却し、マルチOSのデバイス管理とクラウドシステムへのセキュアなアクセスを実現したコスモネットの先進的な取り組みは、MacをはじめとするApple製品の業務利用や、モバイルデバイスを活用した働き方改革を進める企業にとって貴重なモデルとなるはずだ。

※本文中に記載されている会社名及び商品名は、各社の商標または登録商標です。 ※本記事内容は2021年10月現在のものです。



株式会社コスモネット <http://www.cosmonet.ne.jp/>

所在地：京都市中京区烏丸通四条上る笋町689番地 京都御幸ビル6階

設立：1991年5月(創業1979年)

資本金：5億6,600万円(資本金1億円、資本剰余金4億6,600万円)

従業員数：2,164名(2021年3月現在)

事業内容：通信システム事業、企業向けソリューション事業ほか、

Apple Premium Reseller(正規認定販売店)として、

全国に展開する販売店「C smart」を通じたiPhoneやMac、iPad、AppleWatchなどApple製品の販売。

### お問い合わせ先

SB C&S 株式会社

URL：<https://cas.softbank.jp/>

本事例に記載されている各社の会社名・サービス名・製品名等の商標は、各社の商標、または登録商標です。



Value Added  
Reseller  
エンタープライズ



2022/1発行